

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

令和7年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 佐藤 明	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	https://aizuyaichi.or.jp/
市所管課	文化スポーツ部 文化政策課	電子メール	info@aizuyaichi.or.jp
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年5月8日 (平成22年12月22日 公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名①		會津八一記念館管理運営事業						
事業概要		(概要) 市の財産である會津八一の遺墨や八一と交友関係にあった文化人・作家の作品を保存・管理し、展覧会を通じて県民をはじめとする全国の愛好家に業績を普及する。						
		(市政へどのように寄与・貢献するのか) 名誉市民會津八一の内外に誇るべき書作品を紹介することは、市の文化的財産の豊富なことを認識してもらう手段。文化事業への理解と関心を高める。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
公益事業	受託事業	支出額	千円	予算	41,087	43,676	48,893	50,663
				決算	41,928	43,761	49,263	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館者数		R7	人	7,000	-	-		
		R6	人	7,000	5,375	企画展全体では前年を上回ったが、特別展が前年の半数以下に落ち込んだ。		
		R5	人	6,000	7,262	特別展の4,000人超は9年ぶりの盛況。企画展も各1,000人と安定した来館者を確保できた。		
		R4	人	4,500	5,882	3つの企画展ではそれぞれ約1000人、特別展が3000人ほどとコンスタントな入館者数となった。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館料		R7	千円	2,200	-	-		
		R6	千円	2,200	1,637	入館者数同様、企画展は前年を上回ったが、特別展の落ち込みが大きく、全体では前年を80万円余り下回った。		
		R5	千円	2,000	2,455	特別展の盛況大きく実績を引き上げた。		
		R4	千円	1,500	1,973	3つの企画展ではそれぞれ約1000人、特別展が3000人ほどとコンスタントな入館者数となった。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
		R7						
		R6						
		R5						
		R4						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価			文化的財産である作品等の保管及び管理が適切に行われた。					

2. 主要事業

事業名②		展示事業						
事業概要	<p>(概要) 新潟を代表する文人會津八一の作品と業績（短歌、書、美術史、教育）を広く知ってもらうため、八一の遺墨を中心に展示。年一回の特別展ではゆかりの人物や地域に焦点を当て、また3回の企画展では所蔵品を中心に作品を展示。</p> <p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 孤高の生き方を貫き、優れた作品を残した八一の業績を知ること、新潟の文化的土壌の豊かさを再認識し、そのことを誇りとすることができる。</p>							
	事業区分	収支区分	単位	予算・決算	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	5,272	5,635	5,836	6,273
				決算	5,962	5,772	6,359	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
特別展 (入館者数)	R7	人	3,000	-	-			
	R6	人	3,000	1,900	展示の評価は高かったが、杉本健吉や入江泰吉の知名度が低く、奈良をテーマとした割には低調だった。			
	R5	人	3,000	4,154	全国で開催された棟方志功展の中でも八一との交流に絞った展示が高い評価を得て、多くの来館者を獲得できた。			
	R4	人	3,000	2,965	飛鳥園から借用した高精細なデジタル写真は1点1点サイズが大きかったため展示数が限られる制約もあった。			
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
企画展 (入館者数)	R7	人	3,000	-	-			
	R6	人	3,000	3,475	館長が監修した夏季企画展が通常の1.5倍ほどの入館者となった分が目標を上回った			
	R5	人	3,000	3,108	猛暑もあったが、それぞれ1,000人程度コンスタントに来館があった。			
	R4	人	5,000	2,917	夏から冬にかけてコロナ第7波、第8波が相次いで襲来したが、それぞれ1,000人ほどが来館。			
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R4							
	R3							
	R2							
	R1							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		所管課として広報等市民への周知を行った。観覧者は令和5年度から減少したが、来場した方へは會津八一の価値が伝わったものと考えられる。						

2. 主要事業

事業名③	文芸講演会事業							
事業概要	(概要) 4回の展示に関連してその分野の研究者・専門家を招き、テーマに関連した内容を語ってもらう。そのことにより県民市民が教養を高める一助とする。							
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業への関心を高め、文化的土壌を育むとともに文化・歴史に対する市民の誇りを高める。専門家の話を聞くことで市民の文化的教養が深まり、市の文化的厚み（文化度）が高まる要因となる。							
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	1,320	1,320	1,320	1,320
				決算	1,172	1,207	1,335	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
開催数	R7	件	7	-	-			
	R6	件	6	6	6	特別展はトークイベントを含め2回、企画展では1回ずつ、ほかに高校生拓本大会で開催。夏季企画展では台風接近のため急きょ中止した。		
	R5	件	9	9	9	講演会を1回トークイベントで代替、文芸講演会は4回。ほかに館長講座を4回開催した。		
	R4	件	9	9	9	企画展、特別展ごとの講演会5回のほか、館長自ら講師を務める館長講座を4回開催した。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
聴講者数	R7	人	650	-	-			
	R6	人	550	438	438	夏季企画展の野中館長講演会を台風接近で急きょ中止した分目標に届かなかった。		
	R5	人	800	822	822	各回とも4年度より参加者が少なかった。特に夏の講演会は猛暑のため参加者が少なかった。逆に館長の講演会は増加した。		
	R4	人	600	835	835	館長講座はコロナ感性防止のため120席に絞ったこともあり、補助いすをだすこともあり盛況だった。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R7							
	R6							
	R5							
	R4							
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		所管課として広報等で市民への周知を行った。多くの方の関心を集めた講演会を企画し、市民の文化的教養の向上につなげることができた。						

2. 主要事業

事業名④		販売事業						
事業概要		(概要) 特別展図録、自主開発した商品、関連書籍、往復書簡集（會津八一のやりとりした書簡の活字起こし）の制作販売。						
		(市政へどのように寄与・貢献するのか) 所蔵作品・資料を、展示とは別の形態（書籍、図録、商品デザイン）で活用することは、文化的財産への関心を別の角度（購入・読書）から高めることにつながり、市の文化事業理解へとつながる。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
公益事業	自主事業	収入額	千円	予算	3,000	3,000	3,000	3,000
				決算	2,175	1,963	1,762	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
販売事業		R7	千円	2,000	-	-		
		R6	千円	2,000	1,116	「学規」の鉛筆を発売したが動きは鈍く、特別展入館者が大きく減ったため、全体のグッズの売れ行きも芳しくなかった。		
		R5	千円	2,000	1,436	来館者は増加したものの、特別展図録以外には書籍等を発行しなかった。計画には及ばず、令和4年度実績もわずかに届かなかった。		
		R4	千円	2,000	1,466	来館者は増加したものの、新刊もなく伸び悩んだ。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
鑑定事業		R7	千円	1,000	-	-		
		R6	千円	1,000	710	贋作は少なかったが、出品数が21点にとどまった。市況の低迷も影響している。		
		R5	千円	1,000	527	応募数は24点から29点に増加したが、贋作が多く、鑑定料をいただく件数が18点から9点に激減した。		
		R4	千円	1,000	709	出品数は頭打ちだが、認定率が昨年を上回った		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
		R7						
		R6						
		R5						
		R4						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		市民をはじめとした多くの方々の文化的財産への関心向上に貢献した。						

2. 主要事業

事業名⑤		普及活動事業						
事業概要		<p>(概要) 會津八一の業績のうち短歌について、そのイメージを写真で表現することを呼びかける。そのことによって写真分野で活動する人たちにも八一の世界をしってもらい、もって八一の業績の広まりと認知度アップを図る。また職員が館外で講演することにより、来館したことのない人からも會津八一に関心を持ってもらい、業績を認知してもらう。</p>						
		<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 市の文化事業の厚み、多彩さを印象付ける。また専門学芸員を擁すること、その知識経験を館外で発揮するというのも、市の文化的土壌の豊かさを認知してもらう契機となる。</p>						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	予算・決算	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
公益事業	自主事業	支出額	千円	予算	2,650	3,000	3,000	3,000
				決算	3,022	2,562	2,295	-
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数		R7	点	170	-	-		
		R6	点	190	135	これまで年2回応募を促すチラシを送っていたが、郵便費の値上げもあり1回にしたことも影響しているかもしれない。		
		R5	点	190	137	応募点数は減ったが、対象とする歌が多様化し、応募作品の質が高くなっていると浅井委員長も評価している。		
		R4	点	180	184	16回目を迎え、写真愛好家には定着していると浅井慎平委員長から評価いただいた。		
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
館長・学芸員の出前講演会、講座回数		R7	回	8	-	-		
		R6	回	8	12	校長会への要請もあったのか市内2小学校から依頼があったほか、県内や奈良からの要請もあり増加した。		
		R5	回	7	7	出前授業は特定の団体、学校だが、展覧会ごとに館長、学芸員による作品解説会を開催し、八一関連の碑を訪ねる「いしぶみ散歩」も開催している。		
		R4	回	8	6	要請を恒例化している団体もある。		
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
		R7						
		R6						
		R5						
		R4						
所管課の関わり及び主要事業にかかる評価		専門学芸員の知識経験を活用し、會津八一の認知度向上に取り組んだ。						

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

令和7年7月1日 現在 (単位：人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員〇B				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員〇B				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	3	3	3	3
常勤	3	3	3	3
市派遣				
市職員〇B				
プロパー職員	3	3	3	3
他団体からの派遣				
非常勤	0	0	0	0
市兼任				
市職員〇B				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等				
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況（市派遣職員を除く。）

令和7年7月1日 現在 (単位：人)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
職員の状況	管理職				
	一般職	3	3	3	3
	合計	3	3	3	3
年齢構成	20代以下				
	30代				
	40代	3	3	3	1
	50代				2
	60代以上	0			
	合計	3	3	3	3

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度(予算)
報酬・給与等	19,526	20,692	20,852	21,894
内 市職員分	0	0	0	0
役員	5,400	5,502	5,527	5,505
常勤				
内 市職員分				
非常勤	5,400	5,502	5,527	5,505
内 市職員分				
職員	14,126	15,190	15,325	16,389
常勤	14,126	15,190	15,325	16,389
内 市職員分				
非常勤	0			
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	4,709	5,063	5,108	5,463
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系	有	予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般正味財産増減の部	経常収益	47,263	48,611	53,288
	基本財産運用益	3,210	3,183	3,183
	特定資産運用益			
	受取会費			
	事業収益	41,371	42,824	47,608
	自主事業収益	3,255	3,041	2,824
	受託事業収益	38,116	39,783	44,784
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,682	2,604	2,497
	経常費用	50,151	47,404	50,749
	事業費	48,970	46,561	49,829
	公益目的事業費	41,066	38,858	41,983
	収益目的事業費	2,399	2,035	1,964
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	5,505	5,668	5,882
	管理費	1,181	843	920
	評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 2,888	1,207	2,539
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	▲ 2,888	1,207	2,539	
経常外収益				
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	▲ 2,958	1,137	2,469	
一般正味財産期首残高	36,321	33,362	34,500	
一般正味財産期末残高	33,363	34,499	36,969	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高		235,087	236,223	238,693

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	23,064	22,996	25,042
役員分	5,794	5,794	6,377
職員分	17,270	17,202	18,665

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
資産の部	資産の部合計	253,521	257,165	263,359
	流動資産	11,906	13,276	17,040
	現金預金	1,101	2,937	6,125
	未収金			
	有価証券			
	その他流動資産	10,805	10,339	10,915
	固定資産	241,615	243,889	246,319
	基本財産	200,255	200,108	199,961
	特定資産	31,895	33,996	36,252
	その他固定資産	9,465	9,785	10,106
	有形固定資産	7,703	7,703	7,703
無形固定資産	1,762	2,081	2,403	
その他投資等				
負債の部	負債の部合計	18,434	20,941	24,665
	流動負債	2,732	3,138	4,615
	短期借入金			
	その他流動負債	2,732	3,138	4,615
	固定負債	15,702	17,803	20,050
	長期借入金			
その他固定負債	15,702	17,803	20,050	
正味財産の部	正味財産の部合計	235,087	236,224	238,693
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	33,363	34,500	36,969
	代替基金			
その他一般正味財産	33,363	34,500	36,969	
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計		253,521	257,165	263,358

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位:千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
市財政支出等の合計	41,008	43,841	49,343
補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	40,928	43,761	49,263
指定管理料(公募)			
指定管理料(非公募)	40,928	43,761	49,263
業務委託(随意契約)			
業務委託(その他)			
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

内容はほぼ100%事業委託料(指定管理料)で、年4回の展示費用や施設管理費、人件費など。目的は新潟市名誉市民會津八一の業績の顕彰と普及活動推進、そしてその活動拠点である記念館施設の維持・管理のため。

(4) 遊休財産の状況

(単位:千円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
純資産	235,087	236,224	238,693
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拠出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	235,087	236,224	238,693

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常損益		▲ 2,888 千円	1,207 千円	2,539 千円
自己資本比率	純資産	92.7 %	91.9 %	90.6 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	435.8 %	423.1 %	369.2 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	96.3 %	96.0 %	95.2 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産	36,687 千円	37,824 千円	40,293 千円
	－資本金（基本金）			
公益目的事業比率	公益目的事業費	92.0 %	93.1 %	93.6 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費	0.17	0.16	0.18
	遊休財産額			
資金運用	基本財産としての 有価証券の保有	有	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。 ② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。 ③ 資金運用に関する情報収集に努めている。 ④ 元本割れのリスクはない。	○
		無		○
				○
				○

（2）団体の自立性

指標		令和4年度	令和5年度	令和6年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	86.8 %	90.2 %	92.6 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額	100.0 %	100.0 %	100.0 %
	市委託料			

（3）経営の効率性

指標		令和4年度	令和5年度	令和6年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	13,790 千円	14,275 千円	15,869 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	▲ 963 千円	402 千円	846 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	2.4 %	1.8 %	1.8 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	394 千円	281 千円	307 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	48.8 %	47.3 %	47.0 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費	25.1 %	25.2 %	25.5 %
	人件費			

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
●	有 計画名称 { 會津八一没後70年に向けて/存在意義を広め、存在価値を高める—生活様式変化の中で } 計画期間 令和2年度～ 令和6年度
概要・数値目標	
<p>【概況】 令和5年度の年間入館者数はコロナ禍前の7,000人台を回復したが、6年度は5,400人弱に大きく減少した。前年の特別展「會津八一と棟方志功」は4,000人以上を集めたが、昨年の「會津八一と大和路」は1,900人とどまったことが大きく影響した。一方、野中館長自ら企画から展示までプロデュースした夏の企画展「鐵齋・八一の文人世界」は1,500人を超え、企画展としては盛況だった。春と冬の企画展を合わせた3つの企画展では3,500人ほどで例年を上回った。</p> <p>【特別展】 令和6年度は八一と、彼の芸術に心酔し、親交を深めた写真家・入江泰吉と画家・杉本健吉の3人がこよなく愛した奈良大和路を題材とした作品を展示した。杉本は八一との書画集「春日野」を刊行し、入江は八一の短歌と自ら撮影した写真を組み合わせた書籍を出版するなどそれぞれの交流ぶりを紹介した。入館者数は2,000人に満たなかったが、入館者アンケートによれば、展示に対する評価は高く、満足度は高かったといえる。</p> <p>【企画展】 春は「秋艸堂に集う文化人たち」。孤高の文人と言われながら、自宅を「秋艸堂」と称し、多くの文化人との交流を深めた八一の意外な一面を紹介した。夏は上記の通り、野中館長が「鐵齋・八一の文人世界」を企画し、これまで対比されることのなかった、個性あふれる二人の芸術家の多様性を紹介した。斬新な企画が功を奏し、新規の来館者を多く集めることができた。冬は「八一を知る 八一がわかる」のシリーズ第4弾。八一芸術の要といえる「書」を取り上げた。左利きだった八一が筆を右手に持ち替え、独自の習練法を考え、日本や中国の古典研究を踏まえて獨往の書人として大成する過程を追った。</p> <p>【八一祭】 2回目の高校生拓本大会を開催。県内7校から50人ほどが参加した。前年同様、事前に採拓の練習ができる用具を貸し出すことでスムーズな大会運営ができ、市外の高校にも参加してもらった。</p> <p>【普及活動】 絵手紙、年賀状、篆刻をテーマに「書の体験講座」を開催した。いずれも実際に自分で作品制作を体験できたことで満足度は高かった。</p> <p>【クラウドファンディング】 令和7年4月1日は會津八一記念館が新潟市西大畑に開館してから50周年を迎えた。記念館では開館50周年を記念し、伝記の出版や著名な講師を招く連続講演会などを開催する。このための資金をクラウドファンディング(CF)で2月1日から年度末にかけて150万円を目標に募集した。支援額は164万円を目標を達成した。またCFの趣旨に賛同し、直接記念館口座に寄付金を入金する企業や窓口で納める個人など、CF以外のも40万円近い寄付があり、総額では200万円を超えた。</p>	
	無 未策定理由

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
有	就任時期 年度～ 依頼先職種 { }	●	有 依頼時期 平成18年度～ 依頼先職種 { 税理事務所 }
●	無		無

③ 事務処理改善の取組み	
●	有 取組内容 平成29年度～
	無 { 新潟市からの指導もあり、窓口でのキャッシュレス決済を導入。システム納入業者の協力もあり、スムーズに移行できた。そのほか、定額減税を的確に処理するための研修会にも参加し、滞りなく対応した。 }

④ 人材育成の取組み	
●	有 取組内容 平成17年度～
	無 { 市や民間の生涯学習事業（市政トーク便りなど）や小中高大学の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげ、若年層への知名度アップも図っている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけでなく、関連人物や周辺情報についても幅広い知識を共有、習得している。それらが、會津八一の業績顕彰活動にも貢献している。また上部団体の研修会にもできる限り参加し、県外博物館の見学で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼に応え原稿を寄せている。そのほか新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会ととらえ、展示ごとに掲載をお願いしている。 }

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況					
●	有 策定時期 平成12年度～ 規定名称 { 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 }	団体ホームページ掲載	●	定款等	21年度～
			●	事業内容	21年度～
			●	役員名簿	21年度～
				役員報酬	年度～
	無 未整備理由		●	事業報告	21年度～
			●	正味財産増減計算書	21年度～
			●	貸借対照表	21年度～
	役員は無報酬		●	事業計画書	21年度～
		●	予算概要	21年度～	

改善対応区分
A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
B: 改善の取組の効果が始まっている
C: 改善の取組に着手
D: 改善の取組に向けて検討中
E: 今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。					
改善のために取り組んだ内容		令和4, 5年度の入館者アンケートでは、展示点数が少ないとの回答が12%あったことから、同じ展示スペースでも不足感のないように配置方法などを工夫した。					
取り組みによる成果		令和6年度のアンケートによれば、不足と回答した方を6%に半減できた。来館者数は大幅に減ったが、展覧会の感想はほぼ95%が肯定的評価であり、来館者増との両立ができる切り口を模索していく。					
改善・対応区分		A	B	● C	D	E	
改善に向けた取り組み	写真コンテスト	実施事項					
		計画	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
		実績	応募190点	応募200点	応募200点	応募200点	
		進捗状況	応募137点	応募135点	11月締切		
		課題への対応	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和5年度は前年から40点以上応募が減り、6年度も前年並みのままだった。浅井慎平審査委員長は「普段は見過ぎてしまう情景に目を向けた、個性的でバラエティーに富んだ作品が集まった」と評価し、応募者のすそ野が広いことを示唆した。				
	その他	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 例年通り、ポスター、チラシなどのほか、新聞やHPでの募集にも努めたが、応募点数は回復せず、高齢化と応募者の固定化を打破しなければならない。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 令和7年度が開館50周年事業で多忙を極めているため、8年度の第20回コンテストの節目に向け、高校生や大学生など、若手の応募者を増やす取組を進める。				
		計画	トークイベント、館長講座	トークイベント書の体験講座	八一祭高校生拓本大会書の体験講座	八一祭高校生拓本大会	
		実績	いずれも実施	いずれも実施	拓本大会は実施		
		進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 トークイベントは定着し、コンスタントな誘客に貢献している。高校生拓本大会も回を重ねるごとに採拓技術も向上し、短時間でも出来のいい作品が生まれている。書の体験講座は絵手紙、年賀状、篆刻とも講師の熱心な指導と、ひとりひとりに目の届く人数に制限したことが幸いした。				
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 トークイベントと高校生拓本大会は開催するが、書の体験講座は使用していた会場が利用できなくなったこともあり、7年度に開催できるか未定。						
課題への対応	【今後の課題への対応】 トークイベント、高校生拓本大会ともに好評であり、継続的に開催する予定。書の体験講座も人気はあるが、今後は市の施設を借りて開催可能か検討する。						

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。					
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	当館の展覧会をはじめ、書の体験講座や写真コンテスト、高校生拓本大会、小学生から高齢者向けの出前授業などは新潟市文化創造都市ビジョンの「心の豊かさ」「いきいきとした暮らし」「まち全体の活性化」という基本理念を実現させるきっかけとなる取り組みだと考えている。					
	取り組みによる成果	令和6年度に入館者数が大きく減ったことは厳しく受け止めているが、入館者アンケートの結果からは満足度は高まり、否定的な回答を減らすことができた。新潟市のビジョンの方向性に沿った事業運営になっていると認識している。					
	改善・対応区分	A	B	●	C	D	E
	実施事項	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
	周年事業の実施	計画 開館50年、没後70年事業の検討	計画 開館50年、没後70年事業の検討	計画 開館50年の実施、没後70年事業の準備	没後70年事業の実施		
	実績 調査検討中	実績 具体的準備を開始	50周年は計画通りに実施				
	進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和7年度の開館50周年に向けて、昨年度策定した事業計画に従って順調に推移した。加えて、50周年関連事業の財源獲得のためのクラウドファンディングにも取り組み、当初目的を上回る支援を受けることができた。					
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 年度後半の連続講演会、50周年の集いを計画通りに進め、50周年事業の完遂に務める。一方、8年度の没後70年の準備を加速しなければならない。					
	課題への対応	【今後の課題への対応】 開館50周年事業と並行して、令和8年度の没後70年に向けた展覧会の構成を早急に具体化する。					

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。							
改善のために取り組んだ内容		昨年度調査で、公益財団法人としては「赤字から脱却できた」と報告した。							
取り組みによる成果		令和6年度から新たな指定管理期間が始まり、黒字となっている。							
改善・対応区分		A	●	B	C	D	E		
実施事項		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
出版	計画	書簡集「雁魚来往」第11号制作		人物小伝「會津八一」		「開館50年の歩み」と詳細な年表発行		未定	
	実績	第10号を節目に休刊		刊行		刊行			
	進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和7年度4月発行を目指し、「新潟県人物小伝 會津八一」の制作に取り組んだ。結果的に6年度末の刊行となり、評判も上々だ。開館50周年の節目に無料の記念誌を8月に発行する。							
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 人物小伝、開館50周年記念誌に続き、例年通り、特別展の図録も9月中に納品される予定。							
	課題への対応	【今後の課題への対応】 開館50周年記念誌のもととなった年表も資料として制作、発行を予定している。							
発信活動	計画	テレビCM、新聞広告		テレビCM、新聞広告		テレビCM、新聞広告		テレビCM、新聞広告	
	実績	企画展は新聞、特別展はCMも		企画展は新聞、特別展はCMも		企画展は新聞、特別展はCMも			
	進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 新潟日報社の発行する「おとなプラス」が令和6年2月で休刊となった。新聞広告掲載回数は令和5年度の145回から88回に激減し、最も大きな広報媒体が使えず、展覧会の周知が難しくなった。							
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新聞広告の掲載回数復活は望めない。令和6年度の入館者アンケートでは展覧会情報の入手経路として新聞20%、ポスター・チラシ32%、市報にいがた7%となっており、大きな変化はない。一方、HP10%、サークル6%などが微増傾向にある。HPの充実は以前から課題としているが、費用との関係もあり、小幅な改善にとどまりそうだ。							
	課題への対応	【今後の課題への対応】 令和7年度も市内の小中学校校長会に出前授業と記念館見学や巡見を実施するよう求めている。副理事長（＝副市長）から提案をいただいた市幹部に同行して教育委員会担当課と直接面会し、市内小中学校に名誉市民である會津八一を知ってもらうための来館や出前授業を促す。							

改善に向けた取り組み

評価指標

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。					
改善のために取り組んだ内容		展覧会でのアンケート回答者に絵葉書をプレゼントし、クイズ回答者には抽選で八一関連グッズを送るなどして、回答者増を図っている。講演会などのイベントでもアンケートを行い、回答をしつこいくらいお願いしている。					
取り組みによる成果		アンケート回答者数は令和5年度を上回ったが、長い目で見ると漸減傾向にある。背景にはリピーターの割合が高く、目の肥えた来館者には特筆すべき展示でなければ回答はしなくなっている可能性もある。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
改善に向けた取り組み	評価指標	実施事項		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
		アンケートの回収率向上	計画	回収率9%	回収率9%	回収率9%	回収率9%
			実績	7.40%	7.67%		
		進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和3年度までは9%を超えていたが、回答を呼び掛けているがなかなか回復しない。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 回答率9%自体、かなり高い目標といえる。アンケートに回答してもらうハードルは高く、プレゼントにお金もかけられない。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 展覧会だけではなく、各種イベントでもアンケートを実施し、課題や要望を記述式で聞いている。上記7.67%には含まれないものもある。小規模ながら、体験講座などは50%を超える回答があり、これらを含めれば8.56%となる。これらの”宝の山”から有効なヒントを得ていきたい。				

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。					
改善のために取り組んだ内容		税理士事務所と協議しているが、図録や色紙などの在庫は発行から時間がたってもその史料価値に変化はないとの認識を共有している。これらを有効に活用するため、講演会の内容によっては図録や色紙、グッズなどを一への関心をさらに深めてもらうためのインセンティブとして有効活用している。					
取り組みによる成果		令和6年度末に刊行した「新潟県人物小伝 會津八一」の発行で在庫は若干増加したが、こうした事情を考慮すれば、在庫はわずかだが減少傾向にある。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	販売促進	計画	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	
		実績	1,436千円 (0.02%減)	1,116千円 (22.3%減)			
		進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和4年度に31.6%増となった反動が表れている。開館50周年に向け、令和6年度予算で刊行した「新潟県人物小伝」は入門書として好評であり、今後息の長い商品となると評価している。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 特別展図録など、制作部数とこれによって決まる制作単価、結果としての在庫、これらがうまく均衡を取れるような適切な解はなかなか見つからないため、模索を続ける。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 開館50周年を記念した連続講演会などの機会も活用して、「新潟県人物小伝 會津八一」やグッズの販促を行う。				
	既存在庫削減	計画	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	
		実績	10,090千円 (6.0%減)	10,812千円 (7.2%増)			
			進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 開館50周年で令和6年度末に発行した「新潟県人物小伝 會津八一」が在庫に加わり増加したが、これを除けば在庫は漸減傾向にある。			
			今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 人物小伝は4月以降、書店や窓口での販売、関係機関への配布などを進めている。			
		課題への対応	【今後の課題への対応】 講演会やイベントに関連する過去の図録を配布するなど、次の来館やイベント参加、出版物購入のきっかけとなるような手法で在庫削減を進める。				

改善指示事項		中長期計画を補うものとして、事後的な評価ができるよう、客観的な成果指標を設定することが必要である。						
改善のために取り組んだ内容		主要事業の調査では入館者数、入館料、講演会回数、聴講者数、販売事業、鑑定事業、学芸員の出前授業回数などの目標設定を行っている。在庫管理については既述の通り、資料としての価値のあるものと認識し、講演会やその他イベントで、次の来館やイベント参加のきっかけとなるよう効果的に配布する。						
取り組みによる成果		講演会の演題に関連する、過去の図録を配布するなど、参加者にも喜んでもらっている。今後も引き続き関心を持ってもらえるように活用している。						
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E	
改善に向けた取り組み 評価指標	実施事項		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
	市内中学校来館校数	計画	訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校	訪問5校 来館10校		
		実績	訪問0校 来館14校	訪問0校 来館17校				
		進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 出前授業の要請がないのが残念だが、来館校数で訪問校を合わせた目標を超えている。来館は17中学から153人が来館。うち旧新潟市内は12校78人。私立は2校25人。					
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 旧市内の学校が7割を占めるが、人数は5割にとどまっている。巡見は各校で実施していると思われるが、絶好の立地にありながら訪問先を選んでもらえないのは残念だ。校長会でも申請すれば無料で見学できるとの文書を配布しているが担当の教諭が承知していないこともある。					
		課題への対応	【今後の課題への対応】 令和6年度から小学校も含め、市内校長会の会長や事務局長に出前授業や来館の要請をしている。今後は副理事長（＝副市長）から提案をいただいた教育委員会担当部署への要請を行っていく。					
	認知度向上（情報入手方法「新聞」の割合増加＝アンケート回答）	計画	30%	30%	30%	30%		
		実績	19%	20%				
			進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和6年2月末で新潟日報社の「おとなプラス」が休刊となったため、新聞広告の掲載回数が激減した。それでも前年並みを維持できたのは朝刊の展覧会解説記事や広告を見てくれる回答者が一定数いると認識しており、新聞の影響力はまだまだ大きい。				
			今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 新聞以外の媒体ではポスター・チラシ32%、市報7%、新聞を合わせると紙媒体で60%ほどになる。これらを大切にす一方、新聞の購読率が低下する中で、記念館発の情報を紙媒体だけに頼ってはいられない。				
		課題への対応	【今後の課題への対応】 アンケートによると、来館者のうち、60歳以上が全体の3分の2を占めている。今後は若い世代からも来館してもらえるようHPやSNSの利用を考えなくてはならないが、費用や更新頻度を考えると既存媒体を有効に活用していくことになる。					

改善指示事項		特別展や企画展といった展示事業は、関係各所に引き続き協力を仰いでいく必要がある。					
改善のために取り組んだ内容		職員のネットワーク、特に館長の人脈に頼る部分が多い。この業界で高い信頼を得ている館長の力を存分に発揮していただいている。					
取り組みによる成果		館長自らプロデュースした企画展を開催。特別展ではないが富岡鐵齋と八一を組み合わせた、他には例のない展覧会となり、通常の1.5倍ほどの来館者を迎えることができた。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
改善に向けた取り組み	評価指標	実施事項	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
		計画	新規協力企業獲得	新規協力企業獲得	教育機関との連携	教育機関との連携	
		実績	図録広告2社増加	図録広告1社増加			
		進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 令和6年度の図録広告に新たに1社加わった（7年度も1社増）。 7年度の特別展では姉妹館の早稲田大学會津八一記念博物館から多数の作品を借用することになった。				
		今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 図録広告もこの3年ほどで3～4社増やしたが、ほぼ完売状態となり。ページ数を増やさないと収容できない。とってそれを埋め尽くすほどの広告主の発掘は難しい。				
課題への対応	【今後の課題への対応】 令和6年度末にクラウドファンディングを実施し、不特定多数の方々から支援をいただいた。このようなことはなかなかできないが、講演会や体験講座といったイベントでも支援してくれる企業や団体を探すことも考えたい。						

改善対応区分 A:改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む) B:改善の取組の効果が始まっている C:改善の取組に着手 D:改善の取組に向けて検討中 E:今は実施せず今後の課題とする
--

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

今後改善を要する事項		展示室が1室である。(廊下にも展示できるが)1室というのは内容は別として「ここだけ?」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい。																									
改善に向けた取り組み 評価指標	改善のために取り組んだ内容	令和4、5年の来館者アンケートでは展示数が少ないという意見が12%あったため、決められたスペースを有効に活用し、展示数が少ないという印象を与えないよう工夫をした。																									
	取り組みによる成果	既述の通り、令和6年度の来館者アンケートでは展示数が少ないという回答はら6%に半減した																									
	改善・対応区分	<table style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:25%;"></td> <td style="width:25%;">B</td> <td style="width:25%;">●</td> <td style="width:25%;">C</td> <td style="width:25%;">D</td> <td style="width:25%;">E</td> </tr> </table>					B	●	C	D	E																
		B	●	C	D	E																					
	実施事項	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度																						
展示の充実	<table border="1" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:25%;">計画</td> <td>書家八一＝書作品を意識した展示</td> <td>書家八一＝書作品を意識した展示</td> <td>書家八一＝書作品を意識した展示</td> <td>書家八一＝書作品を意識した展示</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	計画	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	実績	達成	達成			<table border="1" style="width:100%;"> <tr> <td style="width:25%;">進捗状況</td> <td colspan="4">【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 来館者アンケートでは展覧会の感想について「とてもよかった」と「よかった」を合わせた肯定的評価が5年度の92%から6年度は95%に上昇した。90%を超えるレベルで3ポイントアップは評価している。</td> </tr> <tr> <td>今後の課題</td> <td colspan="4">【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 90%を超える評価を継続させることは難しいが今後も維持したい。高い評価をいただいた一方で、来館者数が減ったことはPR不足の面があるかもしれない。</td> </tr> <tr> <td>課題への対応</td> <td colspan="4">【今後の課題への対応】 当館の学芸員が企画する展覧会は一定の評価はいただける。慢心することなく、質量ともに満足していただける内容で来館者数も増やすよう努める。</td> </tr> </table>	進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 来館者アンケートでは展覧会の感想について「とてもよかった」と「よかった」を合わせた肯定的評価が5年度の92%から6年度は95%に上昇した。90%を超えるレベルで3ポイントアップは評価している。				今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 90%を超える評価を継続させることは難しいが今後も維持したい。高い評価をいただいた一方で、来館者数が減ったことはPR不足の面があるかもしれない。				課題への対応	【今後の課題への対応】 当館の学芸員が企画する展覧会は一定の評価はいただける。慢心することなく、質量ともに満足していただける内容で来館者数も増やすよう努める。			
計画	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示																							
実績	達成	達成																									
進捗状況	【令和6年度までの達成状況及び今後の見込み】 来館者アンケートでは展覧会の感想について「とてもよかった」と「よかった」を合わせた肯定的評価が5年度の92%から6年度は95%に上昇した。90%を超えるレベルで3ポイントアップは評価している。																										
今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】 90%を超える評価を継続させることは難しいが今後も維持したい。高い評価をいただいた一方で、来館者数が減ったことはPR不足の面があるかもしれない。																										
課題への対応	【今後の課題への対応】 当館の学芸員が企画する展覧会は一定の評価はいただける。慢心することなく、質量ともに満足していただける内容で来館者数も増やすよう努める。																										

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	令和6年度から引き続き指定管理者者に選定していただいた。これに伴う予算配分に沿った事業運営で昨年に引き続き黒字となった。ただ、公益目的事業の赤字を収益目的事業で埋める理想的な体質への改善努力は怠れない。
団体の自立性	事業の根幹をなす展覧会事業やこれに付随する講演会、その他イベントは企画立案から運営まで職員で完結している。地元新聞社や放送局から寄付金を頂戴し、令和6年度末には開館50周年事業に向けた費用を賄うためクラウドファンディングを実施し、公益財団法人の負担増を抑える努力をした。
経営の効率性・適正性	常勤職員4人の誰かが年間300日程度の開館日に出勤している。土日に開催することが多い講演会やイベントでは総がかりとなるが、仕事にメリハリをつけながら職員相互に譲り合い、有給休暇もきちんと取得している。窓口業務をアルバイトの方をお願いする日もあり、余裕があるほどではない。
その他	

【新たに改善を要する事項】 ※「6. 経営改善状況」に記載のもの以外で改善を要する事項を記載

今後改善を要する事項					
評価指標	実施事項	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	計画				
	実績				
	今後の課題	【取り組み状況を踏まえた今後の課題】			
	課題への対応	【今後の課題への対応】			

【団体による総括的な評価】

<ul style="list-style-type: none"> ・年間入館者数が大きく減ったことは大きな課題となった。偏に特別展の入館者数に影響されてしまった。前年の棟方志功は知名度も高く、関心の高い芸術家だったが、杉本健吉、入江泰吉は知る人ぞ知るレベルの知名度だったかもしれない。ただ、展覧会の評価は前年を上回る充実した内容だったと評判は良かった。八一との関連が薄い著名人を無理に関連付けて展示することもできないが、一般市民が見学に行ってみようと思うような内容との両立を不断に追求していくしかない。 ・財団としては前年度に続き、黒字を確保できた。公益目的の赤字を収益目的で埋めるような理想には遠いが、今後も赤字を出さないよう工夫していく。 ・出前授業は目標を達成したが、若い世代へのアプローチをもっと強化しなければならない。「拓本大会」以外にも中高生を対象としたイベント案も出ており、実施に向けて検討を進める。
--

【所管課による評価】

入館者数が昨年度から大きく減少し、目標に達しなかった。アンケート集計結果では観覧者の評価は引き続き高い水準を維持しているものの、若い世代に會津八一を知ってもらうための取り組みをさらに強化してほしい。
